



例会/毎週水曜日 12:45~ 例会場/勇屋会館 事務所/安曇野市豊科 4312-6 奥村ビル2F
 TEL0263(73)2901 FAX0263(72)3181 E-mail azumirc@poppy.ocn.ne.jp

会長 中村 忠 幹事 小穴 実

2019~2020年度 R.1テーマ

ロータリーは世界をつなぐ

R.1会長 マーク・ダニエル・マローニー



クラブ標語:「It is much More Important how to be good, rather than how to do good」

~9月は基本的教育と識字率向上月間です~

★ 配布 ・幹事報告7号 ・Rの友9月号
 ・G月信9月号

★ ロータリーソング ・君が代
 ・奉仕の理想

★ ゲスト
 ・米山奨学生 グエン トウエト フォン様
 ・松本空港RC 直前会長 山本博子様
 幹事 江原ヒサン様

★ 会長挨拶 [中村会長]

今日は私がロータリークラブに入会して学んだ、ロータリーの基本理念の一つ「四つのテスト」についての話です。

真実か どうか

みんなに公平か

好意と友情を深めるか

みんなのためになるか どうか



4つのテストは皆さんもご存知の通りですが、藤森(康友)会長は、例会時必ず復唱しておりました。その後、私も判断基準として、場面、場面に応じてこの「四つのテスト」がいい指針になってくれております。そこで、この「四つのテスト」の背景を調べてみました。今から60年以上も前の大恐慌のさなか、一人のロータリアンが4項目からなる簡明な倫理指針を考案しました。この指針は、窮地にあった彼の会社を救うのに役立ったのです。この指針が表現していた内容や信条はまた、ほかの多くの人たちに対しても、倫理的羅針盤を提供することになりました。やがて、国際ロータリーによって採用され、広く知れ渡ることになったこの四つのテストは、今日では、ロータリーの基

本理念の一つとなっています。

この四つのテストの創案者であるハーバート J. テーラーさんは、やり手で卓越したセールスマンであり、人の上に立つ人物だったそうです。

そしてやがてシカゴロータリークラブの会員となりました。1932年、ジュエル・ティー社の次期社長候補であったハーブは、破産寸前状態にあったシカゴのクラブ・アルミニウム社の再建を依頼されました。調理器具メーカーの同社は、総資産額を40万ドル上回る負債を抱え、倒産の瀬戸際にありましたが、この難事業を引き受け、危機に瀕した同社に自らの運命を託したのです。彼は、ジュエル社を辞め、これまでの給与の8割減という収入でクラブ・アルミニウム社の社長に就任しました。しかもそのうえ、運営資金に充てるため、自己資金6,100ドルを同社に投資したのです。

同社を建て直し、大恐慌下の沈滞ムードを払拭(ふっしょく)するための手段として、社員たちに倫理的価値観の目安となる簡潔な指針を提供すべく、社の倫理訓について構想をめぐらせ、それを7つの項目にまとめたのです。四つのテストは当初は、七つのテストだったのです。しかし、これでも長いと考えた彼は、それを自問形式の4項目にまとめ上げ、それが今日の四つのテストとなりました。

このようにして、「言行はこれに照らしてから」の四つのテストが誕生したのです。

簡潔さの中に深い意味を包含するこのテストは、事の大小にかかわらず、クラブ・アルミニウム社が諸事決定を下す際の基本となったのです。しかし、テストというものはどんなものであれ、実際に検証される必要があります。実社会でうまくいくだろうか? 事業家がその指針に従って仕事をこなしていけるだろうか?

ある弁護士はハーブにこう言いました。「もし私がこのテストを厳密に実行したら、私は飢え死にするでしょう。ビジネスに関して言えば、四つのテストは絶対に実行不可能です」。

ロータリアンの中にも、四つのテストは極度に単純化された哲学であって、その有用性は疑わしく、相矛盾する趣旨からなっており、目標は非現実的である、と真剣に考えている人たちが常に存在しました。

このテストは、自らの動機と目標を思慮深く検討するよう求めるものです。真実、公平さ、思いやりに対する強調は、道徳的要素を多く含有しているため、“倫理的消化不良”を起こしてしまう人たちも確かにいます。しかし、1930年代のクラブ・アルミニウム社においては、あらゆるものが、四つのテストに照らして判断されたのです。

ある日のこと、販売部長が、調理器具 5 万点の注文が取れるかもしれないと発表しました。売り上げは低迷状態にあり、会社は依然として倒産の危機から脱していませんでした。最高幹部の人たちは、明らかにこの販売の機会を逃すことなく、商談が成立することを望んでいました。しかし、一つの問題点がありました。販売部長が聞いたところでは、注文主である業者は商品を値引きして販売したいというのです。「これでは、これまでわが社の製品を地道に宣伝し販促してきてくれたディーラーに対して不公平となります」というのが販売部長の意見でした。結局、この注文は断ることになりました。その年には、ほかにいくつか厳しい決断が下されましたが、これは、その中でも最も苦渋に満ちた決断の一つでした。この取引を行ってれば、疑う余地もなく、同社が営業活動のよりどころとする四つのテストを嘲笑（ちょうしょう）することになったでしょう。

1937年までに、同社の負債は完済され、その後の15年間では、株主に対して100万ドル以上の配当が支払われました。また、同社の純資産は200万ドル以上に達しました。

いかがですか？それでも、あまりに理想的すぎて実社会には向かない、とお考えですか？ 四つのテストは、ビジネスという厳しく、変転きわまりない世界で生まれ、経済界が経験した最も過酷な時代の中で、厳密な試験を経てきたのです。それは、実業界という競争の場で生き残ってきたものなのです。

1942年、当時の国際ロータリー（R I）理事のシカゴのリチャード・ベナー氏が、ロータリーもこのテストを取り入れるべきだとの提案をしました。R I理事会は、1943年1月にベナー氏の提案を承認し、四つのテストを職業奉仕プログラムの一つの構成要素としました。もっとも、このテストは、今日では四大奉仕部門のすべてにおける不可欠の要素として認識されています。

現代社会が今いちばん必要としているものは倫理的

誠実さであると言ってもいいでしょう。四つのテストは、人々が価値ある目標を追い求める際の指針として活用できます。その目標とは、友人を探し選び、その友人関係を維持すること、周りの人たちと友好関係を築くこと、幸福な家庭生活をつくりあげること、高い倫理的・道徳的基準を設定し身につけること、自ら選択した事業や専門職で成功を収めること、より良き市民となり、次の世代にとっての良き手本となること、といったことです。

簡潔さの中に多くが語られ、感動的なまでに力強く、実のある成果を必ずもたらすこの四つのテストは、緊張と混乱と不確実性に満ちたこの世界のただ中に、清新で明るさにあふれた未来展望を与えてくれるのです。

★ 幹事報告 [小穴幹事]



別紙参照

◇出席

会員総数 27 名		出席免除会員数 3 名	
本日の出席率		前々回 (8月7日修正出席率)	
出席者：11名		欠席者：12名	
欠席者：13名		メキップ：10名	
出席率：45.83%		出席率：91.66%	

◇ニコニコ BOX

場々：9/7 三角島のスケッチ会、参加者が4名しかいません。

石田：少し涼しくなりましたね。

岩波：ゲストの皆様ようこそ

笠原：ゲストの皆様さん、たいへんご苦勞様です。

小林：ゲストの皆様をお迎えして。

丸山（慶）：松本空港ロータリークラブ山本様江原様をお迎えして！宜しくお願ひ致します。

中村：松本空港ロータリークラブ山本博子様、江原ヒサシ様ようこそ！

小穴：松本空港ロータリークラブ直前会長山本博子様、幹事江原ヒサシ様米山奨学生パンちゃんを迎えて。

高木：ゲストをお迎えして。ごゆっくりどうぞ

[11件 21,000円]

今年度ニコニコBOX計 120,000円

★松本空港 RC 直前会長 山本博子様 ご挨拶



アルプスあずみのセンチュリーライドご協力
ありがとうございました。



★雑誌評論 石田会員



ロータリーの友9月号より抜粋して
お話ししていただきました。

